

アライグマによる飼育水槽内のアホロートル捕食の記録

藤田宏之（川の博物館）、三上忠仁（埼玉県立自然の博物館）・仁科美奈子（埼玉県立松山高等学校）

はじめに

アライグマ *Procyon lotor* はカナダ南部からパナマにかけての北中米原産で、日本へはペットとして輸入された外来の哺乳類である（自然環境研究センター，2008）。1970年代以降、飼育個体が逃げ出すなどし（自然環境研究センター，2008）、定着した個体により果実などの農業被害、民家などの侵入など生活環境被害、野生動物の捕食など生態系被害が全国各地で発生し（池田，2002；古谷，2009；鮫島ほか，2009；地域環境計画，2013；千葉県，2014，栗山ほか，2021）、社寺等の建物への侵入などの文化財被害（川道，2007；川道ほか，2010）にまでおよんでいる。

埼玉県でも野生化したアライグマの農作物被害や生活環境被害などが急激に増加している（埼玉県，2011）。2007年度の捕獲場所は比企丘陵と県東部の平野部の一部に限られていたが、2014年度には秩父地域の山奥を除く県内において広く捕獲されるようになり、近年では毎年3,000頭以上が捕獲されている（角田，2016）。

埼玉県内ではアライグマの分布拡大と個体数増加により様々な被害が発生しているが、学校建物内の侵入事例として、入間郡毛呂山町にある旧埼玉県立毛呂山高等学校が報告されている（藤田ほか，2018）。本稿では現役で使われている学校校舎内にアライグマが侵入し、水槽内で飼育されている両生類のアホロートル *Ambystoma mexicanum*（メキシコサンショウウオ）を捕食した事例を報告する。

アライグマによる水槽内のアホロートル捕食確認事例

2023年5月10日朝、東松山市の埼玉県立松山高等学校校舎内で、生物部がペットとして水槽内で飼育していたアホロートル1個体が消失していたのを発見された。水槽内ではアホロートルの尾が食べ残され、飼育水槽の周辺には哺乳類の足跡（図1）が残されていたことから、



図1 水槽台に残されていた足跡（仁科撮影）

何者かによって捕食されたことがわかった。

アホロートルの飼育水槽は校舎1階の生物室（理科室）前の廊下に置かれ、昼間は生徒や教職員の往来は頻繁であるが、夜間は無人であり、発見前日の5月9日の夜間から翌5月10日の未明にかけて発生したと考えられる。また、周辺の残されていた足跡の特徴から、アホロートルを捕食したのはアライグマであったと考えられる。

飼育水槽が置かれていた被害発生地点には、すぐ近くに通用口があり、外には階段が設置されているが（図2）、階段上には点々とアライグマの足跡が残され、さらにアホロートルの肉片も落ちていた（図3）。アライグマがどこから侵入したかは不明であるが、被害発生時何らかの原因で通用口はカギがかかっておらず、通用口から屋外へ脱出したた



図2 食べ残されていたアホロートルの尾（仁科撮影）



図3 アホロートルの肉片が落ちていた外階段
(藤田撮影)

め階段に足跡が残っていたと考えられる。

考 察

アライグマは水生生物を捕食することが知られ、サンショウウオ類の捕食については金田・加藤(2011)や栗山ほか(2021)など全国各地で多数報告されている。アライグマはカウソノなどイタチ科のように潜水して獲物を捕食するのではなく、水中に前脚を探り入れ、頻繁に繰り返すため、水深の浅い水辺での被害が多い。未発表ではあるが、埼玉県寄居町で民家の庭先に置かれた水槽内から観賞魚であるニシキゴイ幼魚をアライグマが捕食した記録がある(藤田、未発表)。開口している水槽の上部縁から後脚を支え、前脚を水中に突っ込んでニシキゴイを捕獲していた。アホロートルの飼育水槽は横に倒されていなかったことから、前出のニシキゴイ捕食記録のように水槽の開口部からアホロートルを捕食したと推測される。

校舎内に侵入したのは夜間の無人の時間帯であるが、昼間は約1,000人の生徒や教職員が行きかう環境下である。また、立地的にも東松山市の中心部に近く、農地や山林などは隣接していない都市化された商業地・住宅地である。ひと気の無い時間帯を狙ったとはいえ、都市化された環境に適応した個体が存在していることがうかがえる。

アライグマは農作物や生活環境、さらに野生動物にまで被害がおよぶだけでなく、人為的な環境下で飼われているペットにまで被害がおよぶ極めて侵略的な外来生物であり、あらゆる手段を駆使し根絶を目指すべきと考える。

謝 辞

当時の状況の聞き取りにご協力いただいた埼玉県立松山高等学校生物部の部員の皆様、ならびに顧問の比留間葉月教諭に感謝申し上げます。

引用文献

- 千葉県環境生活部自然保護課(2014) 特定外来生物アライグマ なぜ問題なのか. 千葉県環境生活部自然保護課.
- 地域環境計画(2013) 特定外来生物アライグマの被害を防ごう! 環境省九州地方環境事務所野生生物課.
- 藤田宏之, 杉田亜紀, 市ノ川賢二, 佐藤翔太, 福田 龍, 渋谷祐貴(2018) 廃校施設内に侵入したアライグマの痕跡調査. 埼玉県立川の博物館紀要 18: 5-12.
- 古谷益朗(2009) ハクビシン・アライグマ おもしろ生態とかしこい防ぎ方. (社) 農山漁村文化協会.
- 池田 透(2002) アライグマ, 日本生態学会編 外来種ハンドブック. 地人書館.
- 金田正人, 加藤卓也(2011) 外来生物アライグマに脅かされる爬虫両生類. 爬虫両棲類学会報2011 2: 148-154.
- 環境省(2016) 生態系被害防止外来種リスト. 環境省自然環境局野生生物課外来生物対策室.
- 川道美枝子(2007) アライグマと文化財への被害. 災害から文化財を守る会情報ネット 15: 2-5.
- 川道美枝子, 川道武男, 金田正人, 加藤卓也(2010) 文化財等の木造建造物へのアライグマ侵入の実態. 京都歴史災害研究 11: 31-40.
- 栗山武夫, 浅妻祐一郎, 高木 俊(2021) アライグマの分布拡大と在来生態系への影響. 環動昆 32: 131-136.
- 埼玉県(2011) 埼玉県アライグマ防除実施計画. 埼玉県環境部みどり自然課.
- 自然環境研究センター(2008) 日本の外来生物. 平凡社.
- 鮫島弘光, 坂田宏志(2009) 国内・国外の事例について, 兵庫県におけるアライグマの現状(兵庫県森林動物研究センター編). 兵庫県森林動物研究センター 兵庫ワイルドライフモノグラフ 1: 66-76.
- 埼玉県立松山高等学校新聞部(2023) 松ココア Vol. 20. 松山高校新聞 2023年6月15日.
- 角田裕司(2016) ココが知りたい埼玉の環境 22. 埼玉県環境科学国際センターニュースレター31.